

従って、保安、検査が主体で、NRC のような独立機関ではなく、事故に際しては直接の鎮圧等に対処する機関ではない。

国民の大半は保安院の存在を知らなかった。その存在を知ったのは原発事故の経過発表を、保安院の職員がシドロモドロの発表で、オヤと思い、そして保安院とはなに、となり、原子力の監督官庁だと知り、事故を防がなかったばかりか、国民に知らせるべき情報を隠したのか操作したのか、誰のため、なんのため、存在価値そのものが問われている。

今回の福島第一原発事故を受け、原子力利用を推進する経産省から原子力安全・保安院を分離出来るかどうか、推進と検査は別組織にすべき都県等をはじめ、内閣府への移管、或は災害時直接防止に務めることができる総務省消防庁との再編が検討されるだろう。

この保安院の職員は原発に常駐しており、事故後は現場に残って本院、官邸等に状況を報告する義務があるのだろうけれど、さっさと福島県庁へ避難し、更に郡山市へ避難、自主避難なのか、上部からの指示なのか判りません。しかし、東電の職員「フクシマ・フィフティ」は現場で頑張っているのに、何か片手落ちの気がします。

Q：日本政府は情報を隠しているのではないかと、情報操作をしているのではないかと外国メディアから大分たたかれたようですが、ホントに隠していたのですか？

A：まさに通信衛星時代で、世界中に送られた凄まじい津波の映像に、テレビの前に釘付けになり、世界中に衝撃が走った。それに続いて原発の事故、監視衛星で水素爆発で破壊された建屋の映像に、水蒸気爆発、原子炉の爆発と解釈してしまったから、東北地方・関東地方が壊滅するだろう判断したようです。

だから在日外国人は我先にと国外へと避難していった。在日各国大使館、領事館は全力を挙げて東北・関東在住の自国民に電話で何度も避難を呼びかけた。

これは最初アメリカ政府が、在日アメリカ人で福島原発から 80km 圏内に住むアメリカ人を対象に圏外避難を大使館を通して連絡しはじめたことから、他の在日大使館から自国民に対し一斉に避難指示をだしたのです。

外国政府は 25 年前のチェルノブイリ原発事故の悲惨さが念頭にあり、当時のソ連政府は事故を公表せず、放射性物質だけが風に乗って忍びよってきた恐怖、最初に気付いたのは、遙か遠く離れたスエーデンの原発で、監視用のガイガー - カウンター - の警報音が鳴り、メーターの指針は跳ね上がった。

係員は当原子炉の事故かと驚いて調査したが、その兆候なし、そのうちヨーロッパ各地にある原発、研究所、大学等でもガイガー - の警報音、メーターの急上昇、大騒ぎのうちに各地の放射性物質の濃淡、上空の風の方向等を探り、爆発点はソ連国内だと特定したが、ソ連政府は沈黙、勿論マスコミや調査団の入国は認めない、調査、取材は出来ない、

従って、西側で観測して推測することしか出来なかったので余計に恐怖が増した。

その後遺症があるから原子炉爆発に関心が高まり、今度の福島第一原発は、東日本大震災で地震、大津波で世界中が注目していた中で続いて起きたために水素爆発の映像を世界中が初めて見たので、水蒸気爆発による原子炉本体の爆発と勘違いし、チェルノブイリの爆